



# 人生・農業 リセット再出発!

RESET RESET RESET 第2回



国際線航空会社乗務員・作家  
黒木安馬

1950年熊本県生まれ。高校在学中にAFS奨学生で米国留学後、早稲田大学を経て航空会社に入社。業界の常識を破る「カラオケ・フライト」を企画して計7便飛ばし、後に北島三郎らによる「世界初1万メートル上空機上コンサート」も実現させる。自宅は28歳の時に1300坪の土地を開墾して2年半がかりでプールを手作りし、テニスコート、コンサートホールも造る。自宅ステージでは加藤登紀子、山下洋輪、坂田明、尾崎紀世彦など多くのライブやピカソ展を企画し、地域活性化触発運動「グループ・ザ・田舎るちあ」を主宰している。多くの実体験に基づいた人生成功哲学の講演や著書は大手企業でも人気を博して乗務の間をぬって全国を飛び回っている。著書に「面白くなくっちゃ人生じゃない!」(KKロングセラーズ)、「出過ぎる杭は打ちにくい」(ワニブックス)、「リセット人生再起動マニュアル」(ワニブックス)、「小説・球磨川」(ワニブックス上下巻)がある。E-mail : yasuna@mxj.mesh.ne.jp

**啐** 啄(つ)啄(つ)同時という言葉がある。人間磨けば光を放つ。禪宗で機を得て両者相応じること、得がたい良い時期を言うとか。

我が家の千三百坪の敷地に二十数年前から鶏を放し飼いにしている。正確にはチャボである。普通の鶏は飛べないから狸や犬猫に襲われてすぐにいなくなるが、チャボは身が軽いから高さ三十メートルの杉林が格好のねぐらとなっている。夜明けとともに大地に舞い降りる一日の始まりは壮観だ。一時は増えすぎて二百羽を超え、それに七面鳥や孔雀、ウサギにアヒルまで混じり、餌を求めて主人を追いかける集団はヒッチコックの「鳥」さながらの動物園であ

った。人間の身勝手、ある日一網打尽にして処分してしまったが、そのうちの二羽だけは逃げ切り、それがまた増えて三十羽ほどになっている。二羽から再生するほんまもののニワトリであろうか。

産卵して孵化するまで敷の中で温めるのはメンドリである。蛇に絡まれ、カラスに攻撃され、それは見ているだけでもハラハラの連日である。卵の殻を内側から雛がついてくちばしが見え始める。と同時に親鳥が外からもつつき始める。これが早すぎても遅すぎても雛は育たないらしい。その両者相応じることのタイミングが絶妙であり、素晴らしいひとつの生命を産み出すこ

とになる。啐啄とはどちらもつつくという意味である。

切磋琢磨もお互いが良い意味で競い合いながら磨き高めることを言う。十数年の朋よりもきのう今日会ったばかりの友でもその条件を満たしてくれる人は現れる。人は良かれと思って行動し、口にする。人は誉められよう、認めてもらおうと思っても行動している。非難や批評を自ら進んで受けようと生きているわけではない。

私は二年半がかりでプールをスコップで穴掘りから始めてついに造った。それまではブロックを積んだ経験も無かった。どんなプロも最初は素人であるという信念だけが心の頼りだった。完成したのを知り、いろんな友人が見物にやってきた。一人は、たいしたもんだよ、ハッターリ八割ウソ二割のおまえだと思っていたが、よくやったもんだ! と誉めながら、一方では、こんなに広い土地なんだから、もつと向こうのほうに造ればよかったのに... と無造作に言い放つ。いいことを言ってくれた、じゃあすぐにも作り直そうと私が行動を起こすだろうか? もう一人は、自分の今までの無力を恥じつつ、ことを成し遂げた相手を手から誉めあげる。

無意識に言葉を吐く。「吐」は「口」から「十」と「二」を同時に出すこと。意。良かれと思つて考えもなしに口にするだけでは人は動かない。ちよつと意識して「口」から「十」だけを出すように心がけると、それは「叶」になる。生涯ともしたい朋とは、それだけの気配りと知恵、機智を持った人である。そうすれば、今夜もまた酒が美味い!